

第4期『鶴見・あいねっと』策定のための 関係団体アンケート調査結果（抜粋）



【調査の概要】

鶴見区では、「たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク」を基本理念に、誰もが安心して生活できるまちづくりのための活動「鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）」を区民の皆様とともに進めています。今回のアンケートは、関係団体の皆様から地域や福祉、保健などの身近なことについてお伺いし、令和3年度から始まる第4期鶴見区地域福祉保健計画の参考とさせていただくものです。

お忙しい中ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

【調査対象・回収数・回収率】

- ・対象：鶴見区社会福祉協議会会員（第1種、第3種、第5種、第6種）
- ・期間：令和元年10月10日～11月15日
- ・配布148件、回収75件（回収率50.7%）。

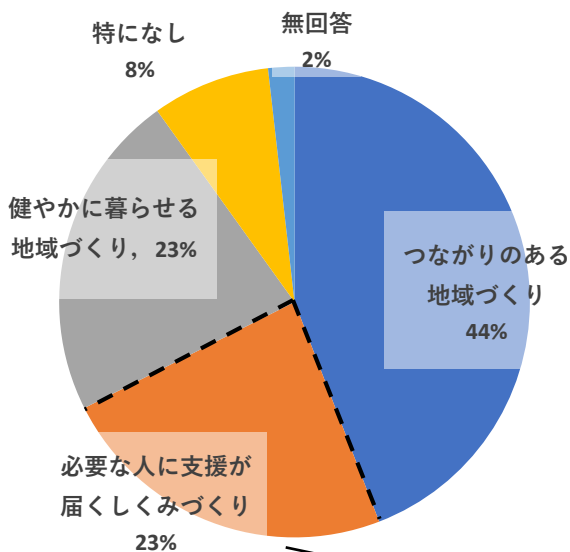
種別	回答数	回収率
1種（施設）	22	44.0%
3種（地区社協）	6	33.3%
5種（当事者団体）	19	47.5%
6種（ボランティア団体）	23	57.5%
種別未記入	5	
総計	75	50.7%

※会員種別について

- ・第1種…公私社会福祉事業施設
- ・第3種…地区社会福祉協議会
- ・第5種…障害者団体等当事者団体
- ・第6種…ボランティア団体、市民活動団体等

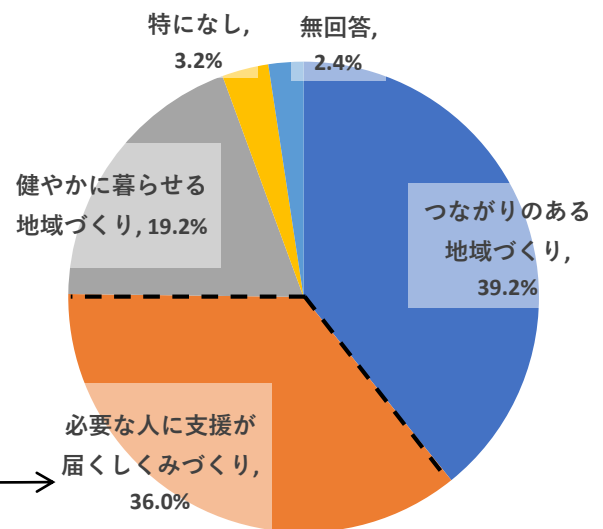
Q.鶴見・あいねっとの3つの柱のうち、 充実してきていると思うものは？

（複数選択可 n=111）



Q.鶴見・あいねっとの3つの柱のうち、 もっと積極的に取り組むべきなのは？

（複数選択可 n=125）

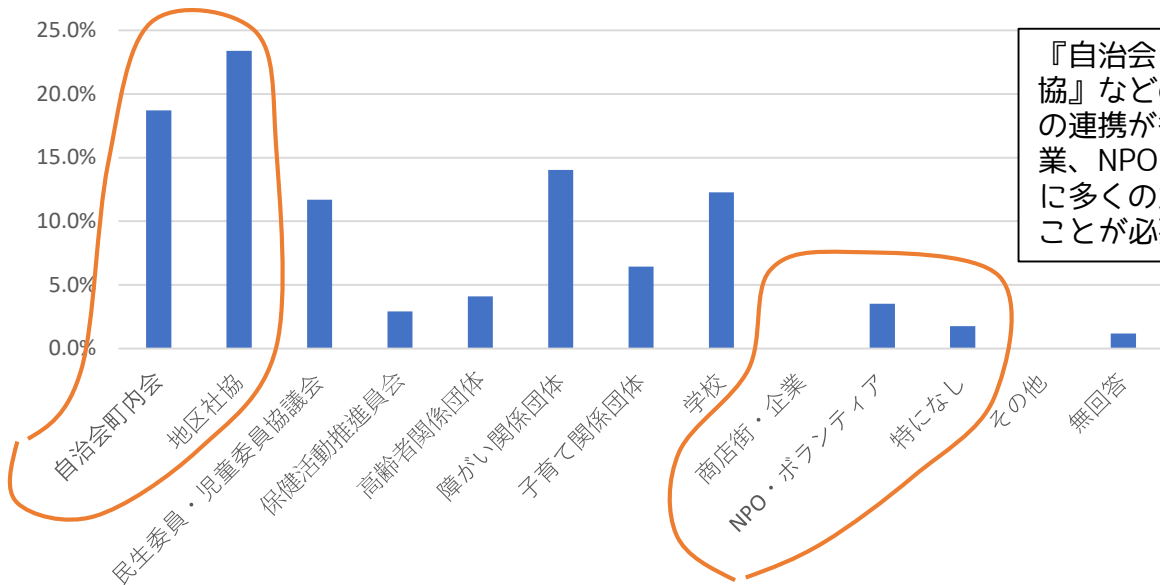


『必要な人に支援が届くしくみづくり』
について、更なる取り組みが求められて
いると考えられます。



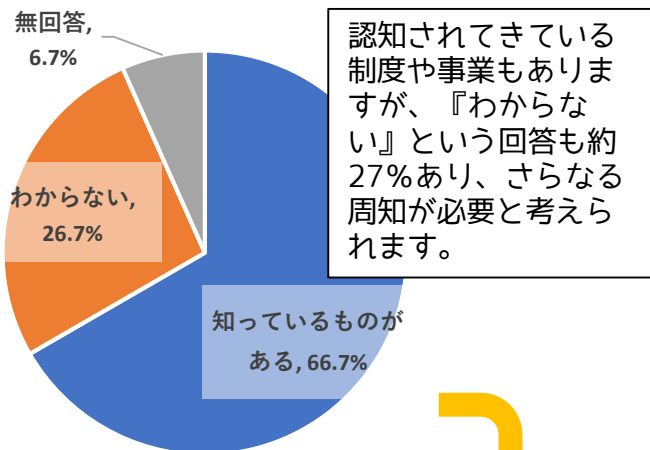
Q.関わりのある団体や関係機関は？

(複数選択可 n=125)



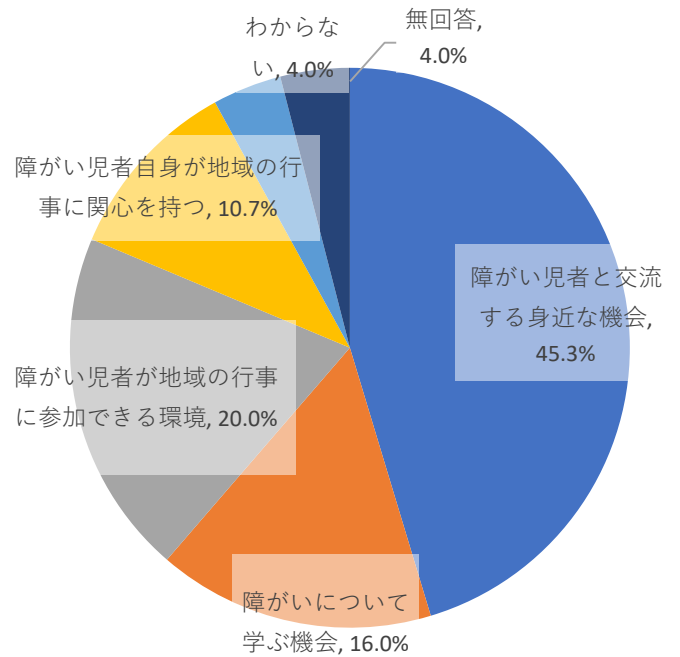
『自治会・町内会』や『地区社協』などの分野を限らない団体との連携が多い一方で、商店街・企業、NPO・ボランティア等、さらに多くの主体との連携を推進することが必要だと考えられます。

Q.生活困窮者支援に関する制度や取り組み等を知っていますか？



認知されてきている制度や事業もありますが、『わからない』という回答も約27%あり、さらなる周知が必要と考えられます。

Q.障害の有無に関わらず住民が主体的に参加できるまちをつくるために、何が重要だと思いますか？ (択一 n=75)



障害児者と交流する機会を地域の中で増やし、障害児者自身も地域に関心を持ち、参加しやすい環境を整えていくためには、地域の協力、障害児者の権利擁護を一層進めていく必要があると考えられます。

